

## 第2回東浦町公共施設再配置計画検討委員会議事概要

会 議 名	第2回東浦町公共施設再配置計画検討委員会	
開 催 日 時	令和5年5月16日(火) 午前9時から午前11時15分まで	
開 催 場 所	東浦町役場 3階 合同委員会室	
出 席 者	委 員	小松尚氏(委員長)、秀島栄三氏(副委員長)、千頭聡氏、筒香住民自治課長、安藤総務課長、榊原財政課長、三宅防災危機管理課長、内田ふくし課長、青木児童課長、小田健康課長、船津商工振興課長、川瀬都市計画課長、前床まちづくり課長、畔上学校教育課長、佐東生涯学習課長、杉浦スポーツ課長
	事務局	神谷町長、神谷企画政策部長、長坂企画政策課長、板谷施設マネジメント係長、竹内主事
議 題 (公開又は非公開の別)	1 あいさつ 2 過年度までの取組みについて 3 東浦町公共施設再配置計画(案)について(資料2~4) (1) 再編の基本方針までの共有 (2) 再編の基本方針を受けた複合化・集約化の方向性 (3) 所管課ヒアリング含む庁内意見・町民意見 (4) 候補地案のあたりづけ含む再編プラン案 (5) ロードマップ案(公共施設評価含む) 4 今後の流れ(公開)	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)		
傍 聴 者 の 数	0名	
審 議 内 容 (概 要)	・委員の出席及び会議の成立を確認 ・傍聴者の確認 ・神谷町長から挨拶  議題の審議内容は、下記のとおり	
備 考	—	

## 1 あいさつ（公開）

町長より挨拶。

## 2 過年度の取組みについて（公開）

事務局より説明。  
（質問意見等なし）

## 3 東浦町公共施設再配置計画（案）について（資料2～4）（公開）

- （1）再編の基本方針までの共有
- （2）再編の基本方針を受けた複合化・集約化の方向性
- （3）所管課ヒアリング含む庁内意見・町民意見
- （4）候補地案のあたりづけ含む再編プラン案
- （5）ロードマップ案（公共施設評価含む）

事務局より、資料2から4について説明し、意見交換を行った。

### ◇委員

5章基本方針の3つ目の項目について、「トータル面積を減らす」と強く示した方が良いのではないか。関係住民は公共施設が減ることに抵抗があると思われ、役場の中の組織でさえも減らしたくないという意見が想定される。ここは強く主張した方が良いと思う。

### ◇委員

2章1節の社会潮流について、当該箇所のみ、視点が世界規模になっているように感じる。もう少し東浦町として現実的な規模（例えば資材不足や人不足等）としても良いのではないかと。また、貸館機能があれば場所は問われないとあるが、言い方を変えた方が良いのではないかと。

第5章の基本方針3について、民間施設・県有施設・広域連携とあるが、何を有効活用できるのかを教えていただきたい。

### ◇委員

第2章第1節について、施設を管理（有効活用含む）できる仕組み・人材の論点が出ると良い。また、広域的な相互利用の視点（特に、東浦町は、知多半島で唯一刈谷市と定住自立圏協定を締結している）も入れておくべきと考える。

緒川新田地区について、本当は巽ヶ丘駅を中心として広域的に考えると違う絵がかけられると思う。東浦町だけですべてをまかなうというのは厳しいと考える。

### ◇委員

第2章第4節の人口について、骨子では2010年をピークに減っていると記載があるが、実際の人口の動きとは異なる。出典を表記するなど誤解のない表記に改めるべき。

### ◇委員

面積は増やさないではなく減らす方向性を原則とした上で、今後、公共施設にかけられる投資的経費等の前提条件を整理し、具体的な目標を設定して検討すべきではないか。目標値がないと今後、個別施設計画を作成する上で、建物の規模や必要経費などコントロールできなくなると思う。

#### ◇委員長

面積を増やさない・減らすだけで良いのかは、一度議論しておくべきである。また、面積は減らすとあるが財源の視点は良いのか。面積は減らさなくても管理運営を変える等の対応でライフサイクルコストが減ればよいという考え方もある。また、再編には行政組織を変える必要がある。複合化の次には融合化の観点も必要である。今後の課題にて記載される例がよくあるが、それでは不十分と考える。再編の支障になるものとして、住民感情があげられるが、庁内組織体制も例外ではない。大都市ほど組織体制の構築がなかなかできない。そのため、基本方針に何らかの記載が必要と考える。

#### ◆事務局

第5章の3点目は、トータル面積を減らすという方向性で修正したいと思う。削減目標の設定については、現段階では具体数値はないため、集約のプランが決まった段階で、数値目標を設定できるかどうか、今後検討したい。

広域的な利用について、本編P.19にて5市5町に相互利用について記載している。

民間施設・県有施設は何を想定しているかについて、町営住宅は民間アパート・県営住宅の活用を想定している。

#### ◇委員

東海市は児童クラブを学校でやっている。学校でやることのメリットは多くあり、学校のできるのであれば、何も建物を作らなくてもできるはずである。すぐにでも実施可能と考える。

中学校3校の統合の話があるが、生徒数を数えて統合できるという話ではなく、小中一貫校にすることで良い教育ができるということを表に出すべきと考える。表でメリットを述べて、裏では施設管理の面からもメリットがあるとより良い。住民合意の観点では大切な視点である。

#### ◇委員長

亀山の事例は、施設の再編からでなく、コミュニティスクールとして計画した結果、複合施設となった。松坂の事例は、事業がうまく動きつつある中で、福祉部局が窓口を持つてくるようになった経緯がある。また、旧公民館は別の課題を解消するために利用するといった玉突きが起きており、結果として公共施設問題に対して良い結果が出ている。

#### ◇委員

骨子内に事例を掲載する必要はあるのか疑問である。事例から複合化の方向性に流れることが疑問に感じる。

地区施設にバランスよく配置という言葉に対して、学校1校化では何がいけないか、という点から考えなければいけないと感じる。削減しなければならぬのであれば、もっと大胆にすべきではないか。機能が重複しているとあるが、学校が重複しているのであれば統合すべきではないか。

#### ◇委員

小中一貫校について、部活の地域移行の中で、緒川新田地区の人口減少が顕著で、部活に人が集まらないといった問題があり、他の中学校との統合を求める声がある。また、緒川新田地区は、唯一小学校と中学校の校区が同じであり、コミュニティスクールも合同で運営されている。小中一貫校とするには緒川新田地区という意識はあるが、具体的な動きはない状況である。今後、活

発な議論をしていきたいと考える。

◇委員

複合する施設のハード面が収まるか収まらないかの検討はしているが、ソフト面も考えて複合するしないを考えたいと思う。

◇委員

そのとおりだと思う。文化系の子供たちの部活を保証するとなると、地域の高齢者の力が必要となる。高齢者の活動場所と学校が近接して、連携しやすくなると、より良いと思う。このようなメリットを示して、学校と高齢者施設が複合といった組み立てができるの良いのではないか。

◇委員

学校が地域に開かれていく動きがある。学校を一つにまとめるのではなく、地域と学校が融合する方向の方が良いと思う。学校を核としてコミュニティ施設が寄っていく形が良いと考える。

◇委員長

社会サービスがどうあるべきかを考えた上で、実施する場所を検討するのが望ましいが、現実的には実施できる場所が限られている。現状問題、適地と考えられるのは、今後児童生徒数が減少していく学校である。そのため、学校を種地にしながら、地区ごとに丁寧に議論していくしかないと考える。地区ごとに人口のバランスやニーズが違い、施設の耐久性等も学校ごとに違う。地区ごとに議論していくしかないと考える。小中一貫校が良いのか、わけるべきなのか、それぞれのバリエーションを検討していくべきと考える。

◇委員

森岡保育園について、老朽化や区画整理の影響より、森岡西保育園との統合を計画している。本計画で方向性を出した上で進めたい。再配置計画の中では、「可能性がある」という書き方でしか書かれないのか。

複合化の方向性の③こども家庭センターの設置について、保健センターの中に児童虐待の部門があり、そこにこども家庭センターを置く事例がある。児童と福祉の複合により良いサービスとなると感じた。ただ、方向性とあるので、具体の結論が出るのか。

◇委員

バランスよく配置されているとあるため、「現状維持で」となってしまうのではないか。施設の機能をまとめてという話があるが、前段でバランスが良いとされているため、住民理解が得られにくいのではないか。老人憩の家は高齢者の交流機能であるため、コミュニティセンターや学校空き教室との複合も考えられる。

◇委員長

バランスよくではなく、各地区に存在するものの、それぞれが単独に配置されており、利用効率が悪い、といった表現の方が良いのではないか。利用実態に比べてコストがかかっているのではないか。

◇委員

庁舎について、消防との複合があるが、メリットがはっきりしないため説明いただきたい。役場と消防支署が一つの敷地であることについて、役場と支署の連携など、どこまでのメリットがあるのか。

◇委員

役場と消防支署が一つの敷地で、ということについて、再配置の視点からどこまでのメリットがあるのか不明である。確かに支署の現在地にはハザードがあるが、災害時よりも平常時を考えるとデメリットが大きいのではないかと。

◇委員

老人憩の家とコミュニティセンターの複合について、知多半島の南粕谷ハウスでは、老人集まってくださいとわざわざ言わなくても集まる例がある。地域移譲での小規模分散型のアプローチもあるのではないかと。そうすればアクセス性の懸念も解消できるのではないかと。

◇委員長

建物を移譲しながらサービスも移譲できればと思う。

◆事務局

ハード面に収まるか収まらないかの検討はしているが、ソフト面も考えて複合の在り方を考えたいと思う。

庁舎と支署の複合のメリットについて、防災の拠点とするほか、現東浦支署の立地場所にハザードの危険があるという点で、複合によって相乗効果、災害時は協働できるのではないかと狙いがある。

◇委員

全町施設①は単体で動いていいのか、未来会議等にはこのような意見があがっていないのではないかと。基金の積み立てを行っているが、役場単体の建替と想定して良いのか。将来的な起債等も考えていきたい。

また、組織の融合も考えていく必要がある。小中学校の窓口の一本化の事例など、コストの大部分を占める職員の人件費などの整理は今後どうしていくのか。

◇委員

P. 3 第4節、全町拠点①～③・地区拠点があるが、全町拠点②の文化センター等の複合は東浦中学校の移転が済まないため、どの案も東浦中学校の複合を一番最初に持つてくる必要があるのではないかと。

P. 6 再編プラン案の検討について、地区拠点は全施設複合の考えで良いのか。体制の再編は必ず必要となるため触れた方がよい。また、小学校が核とあるが、施設を全て解体して新しい建物を作るのか、今ある小学校の空きスペースを活用するのかといった方向性が見えないため教えて欲しい。半田市では小学校のプールを解体した跡地に公民館を新設する方針と聞いている。

◇委員

P. 7 以降のロードマップについて、P. 9 の案3の高齢者相談支援センターは単独の建物のようにかかっているが、現状、勤労福祉会館の1室となっている。勤労福祉会館の複合が先に行われ

た場合、高齢者相談支援センターはどうするのか。ずれが生じるのではないか。

◇委員

駐車場について、現状、混雑する時は入りきらない状況となっている。複合により文化センターの規模が大きくなれば、より多くの駐車場が必要となるため、足りるかどうか不安である。50年先だと生活様式も変わると思うので、フレキシブルな設計になると良い。

◆事務局

P. 6について、地区別では敷地に入るのかという検討をしている段階で、具体的にどの施設を複合していくか、どう配置するのかは、基本構想や基本計画で検討したいと思う。

勤労福祉会館と高齢者相談支援センターはカテゴリーが違うため分けて記載している。高齢者相談支援センターは福祉センター等、空いている場所で運営いただく等の対応が必要となる。

◇委員長

東浦中学校の移転が前提となっているが、他の案は考えられるのか。

◆事務局

全町施設を整備するにあたり、候補地を洗い出した結果、東浦文化広場敷地しか選択肢として残らなかった。

コストは次回までに金額シミュレーションも入れていく。

駐車場は第1回委員会後にヒアリングにより必要駐車場台数を設定している。

◇委員

東浦文化広場（体育館）のテニスコートの場所に東浦中学校の校舎を建てるとあるが、テニスコートをなくすという事は、代替を整備する必要があるのではないか。

◆事務局

敷地に収まるかどうかの検討資料であり、必ずテニスコートを廃止する必要があるという資料ではない。本計画で個別に詳細な検討を行うことは困難である。

◇委員

東浦中学校移転について、教育部としては難しいのではという意見が多かった。森岡地区の複合化の話と比べて、メリットが非常に少ないと考える。数値としては可能かもしれないが、既存の体育館を残すのであれば、校舎の設計に苦慮すると考える。盛土等の対策費用が浮くとの資料があるが、町民アンケートでは学校施設にコストをかけていいという意見もあり、住民に納得してもらえるか疑問である。教育委員会としては、現敷地でかさ上げ等をしながら対応した方が、良いアイデアが出るのではないか。また、市街化調整区域での整備の可能性はないのか。

◇委員

全町拠点の保健センターと文化センターについて、建物自体は別だが、電気等は共同で使っている。複合の時期がずれるとその点に不都合が生じるため、その視点も加味したロードマップになると良い。

◇委員

P. 3にはなのき会館があるが、現状、ふれあい教室で使用しているため、各種支援センターの複合に寄せた方が、より現状に即していると感じる。

◇委員

仮に役場の中に消防署支署を複合するのであれば、非常に重要な施設になるため、安全性等を考慮し用地買収しても良いと思う。

東浦文化広場（体育館）に東浦中学校を移転することについて、通学路の距離だけでなく、国道を通らないですむ等、通学上の安全面もメリットとして加えていいのではないかと。

◇委員

駐車場の確保について、将来を見据えてとあるが、将来がいつなのかを明確にしないとわからないのではないかと。人口減少による影響を反映させないのはおかしいのではないかと。

東浦中学校の通学距離も現時点のものであるが、人口減少等、将来的にはどうなるのか。

◇委員

ロードマップの資料で、これだけある施設の中で、今後廃止する施設は町営住宅と北部防災倉庫だけであるが、この先35年間という計画期間内で、現在町が提供している行政サービスや機能を今後どれだけ行政として保持していくのか十分に検討されたのか。

◆事務局

東浦中学校移転について、どういったメリットがあるのかは整理したい。

用地が足りなければ買収すれば良いとの意見だが、実際に設計段階で用地が足りないのであれば用地買収の必要もあると思う。現段階では、今ある敷地に入るかどうかの検討を行っている。

駐車場について、検討させていただく。

東浦中学校移転はメリットが少ないとの意見があるが、前提として、現在の通学距離や災害リスク等の課題を放っておくことの方が問題である。そのため、よりデメリットが少ない案を選択するという認識でいる。また、市街化調整区域への移転について、立地適正化計画との整合からも、人がいる土地に立地すべきである。

機能廃止の検討について、第1回作業部会にて、どの部署からも廃止できる機能はない、現在の機能は全て提供すべきであるから残っている、という意見があったため、廃止ではなく規模縮小として整理している。

◇委員

市街化調整区域は新しい建物を建てる前提でないことは理解いただきたい。かさ上げして建替えることは、仮移転の必要があるため、困難であると考えます。

◇委員長

現状、1組織1館で行っていることを複数組織1館にすれば、デメリットの方が先に思い浮かぶと思う。ただ、実際にやってみると気が付かなかったメリットが多く得られる。事前に計画や数値化することは難しいが、複合化のメリットとしては、コストや面積の削減ではなく、今までなかったことが生まれるという点に価値があると考えます。

ただし、複合化というものは、面積と人の削減でなく、サービスのあり方を見直すことができないと、削減どころか増えていくと考える。これから50年後に何が起きるかわからないのはその

通りであるが、変わっていける余地を残しながら計画していくべきとある。デメリットを少なくしていくというのは賛成である。一方で、どんなメリットが描けそうか思案することが重要であると考え。

#### 4 今後の流れ（公開）

事務局から資料5に沿って、公共施設再配置計画検討委員会、公共施設再配置計画策定作業部会、東浦公共施設未来会議等の流れを説明。

第2回目の検討委員会は、令和5年8月に開催する予定をしていることを伝えた。